

【今日の説教から】

久しぶりにヨハネの手紙に戻ってまいりました。今日の箇所から少し前に戻り、22・23節にはこうありました。

「偽り者とは、だれであるか。イエスのキリストであることを否定する者ではないか。父と御子とを否定する者は、反キリスト…御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つ」

そして今日の箇所にも次のようにあります。「あなたを惑わす者たち」「偽り」「来臨に際してみ前に恥じいる」

私たちには惑わしと偽りの力が働き、初めから聞いたものから引き離し、父と御子から引き離そうとする力が働いています。

一方祝福の言葉が次のように書かれています。

「御子を告白する者は父をも持つ」「初めから聞いたことが…うちにとどまつておれば…御子と父との内に留まる」

「これが…約束…すなわち、永遠のいのち」

「うちにはキリストから頂いた油がとどまっているので…教えてもらう必要がない…その油が教えたように…彼のうちにとどまつていなさい」

「子たちよ。キリストのうちにとどまつていなさい…彼が現れる時に確信を持ち…御前に恥じいることがないため」

父、御子、聖霊(油)が、私たちを決して離さずにつなぎとめようと働かれます。とどまつていなさい、とどまつていなさいと神様は語られます。そこに私たちの生命線があります。すなわちそれは「義を行う」ということなのです。

皆様、おはようございます。

6月もいよいよ折り返しとなりました。沖縄、九州南部、四国が梅雨入りしていますが、ここ中国地方はまだ梅雨入りをしておりません。平年よりすでに10日遅れています。昨年の梅雨入りはさらに早く5月29日でした。

梅雨入り前とはいえ、昼間は30℃越えの暑い陽気ですので、どうぞ皆様お気を付けください。水分補給に努め、熱中症にお気を付けください。

さて、久しぶりにヨハネの手紙に戻ってまいりました。

1章・2章の復習をしてまいりましょう。

1:1 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について――

1:2 このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、

かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである——

1:3 すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。

2:1 わたしの子たちよ。これらのこと書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

2:2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

2:3 もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。

2:4 「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにはない。

2:5 しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。それによって、わたしたちが彼にあることを知るのである。

2:6 「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。

2:9 「光の中にいる」と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。

2:10 兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまずくことはない。

2:11 兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩くのであって、自分ではどこへ行くのかわからない。やみが彼の目を見えなくしたからである。

2:17 世と世の欲とは過ぎ去る。しかし、神の御旨を行う者は、永遠にながらえる。

2:18 子供たちよ。今は終りの時である。あなたがたがかねて反キリストが来ると聞いていたように、今や多くの反キリストが現れてきた。それによって今が終りの時であることを知る。

2:19 彼らはわたしたちから出て行った。しかし、彼らはわたしたちに属する者ではなかつたのである。もし属する者であったなら、わたしたちと一緒にとどまっていたであろう。しかし、出て行ったのは、元来、彼らがみなわたしたちに属さない者であることが、明らかにされるためである。

2:20 しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。

2:21 わたしが書きおくったのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知つ

ているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。

2:22 偽り者とは、だれであるか。イエスのキリストであることを否定する者ではないか。父と御子とを否定する者は、反キリストである。

2:23 御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。

2:2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

イエス様は、罪に墮したこの世界のため、私たちのために十字架にかかり、贖いをなしてくださいました。

そして今、私たちが救われたのち、新しい歩みに生きることが出来るようにと導いていてくださいます。

2:6 「彼における」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。

2:9 「光の中にいる」と言いながら、その兄弟を憎む者は、今なお、やみの中にいるのである。

1:3 すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。

2:1 わたしの子たちよ。これらのこと書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

2:20 しかし、あなたがたは聖なる者に油を注がれているので、あなたがたすべてが、そのことを知っている。

2:21 わたしが書きおくったのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。

私たちは真理を知り、愛を知り、救いを知り、そして救いの中にいます。その救いの機会をもって、聖靈を注がれたものとして父、御子キリストとの交わりの中にあるものとして、キリストが歩まれたように生き、歩き、イエス様の語られた戒めを守り、すなわち神を愛し、

隣人を愛していくのならば、私たちは光の中にあり、「神の御旨を行う者は、永遠にながらえる」と言わるとおりの人生を送ることが出来ます。

しかし惑わすものは、巧みに私たちをこの光から、命から引き離そうといつも画策しています。

2:22 偽り者とは、だれであるか。イエスのキリストであることを否定する者ではないか。父と御子とを否定する者は、反キリストである。

2:23 御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。

2:24 初めから聞いたことが、あなたがたのうちに、とどまるようにしなさい。初めから聞いたことが、あなたがたのうちにとどまつておれば、あなたがたも御子と父とのうちに、とどまることになる。

今日の御言葉には、「とどまつていなさい」という言葉が数多く出てきます。このことは、いかに私たちが「とどまりつづける」ことに対して数々の妨害を、障害を抱えているのかということを伝えています。

初めから聞いたことを大切に守る。父なる神様が私たちをどんなに愛してくださり、これ以上ない犠牲をもってイエス様を十字架にかけ、私たちの贖いをなしてくださいました。これが私たちが初めから聞いたことです。私たちがいつまでも父なる神様の下で憩い、安頼、とどまり、住み続けることが出来るように、父なる神様は犠牲を払ってくださいました。

おりしも今日は父の日です。私たちは、私達人類の父である神様のことを心に深く思いたいと願います。岩渕まことさんによる「父の涙」という有名な賛美の歌があります。

1. 心にせまる父の悲しみ 愛するひとり子を十字架につけた
人の罪は燃える火のよう 愛を知らずに今日も過ぎて行く

十字架からあふれ流れる泉 それは父の涙
十字架からあふれ流れる泉 それはイエスの愛

2. 父が静かにみつめていたのは 愛するひとり子の傷ついた姿
人の罪をその身に背負い 父よ彼らを赦してほしいと

十字架からあふれ流れる泉 それは父の涙

十字架からあふれ流れる泉　　それはイエスの愛

私たちがいつまでも神様に留まることができるよう、お父様はどれだけお心を割いてくださったのでしょうか。

その、父なる神様が送ってくださった救いのための唯一の道、贖いのイエス様を否定したところで、私たちに何の益があるのでしょうか。

2:23 御子を否定する者は父を持たず、御子を告白する者は、また父をも持つのである。

2:24 初めから聞いたことが、あなたがたのうちに、とどまるようにしなさい。初めから聞いたことが、あなたがたのうちにとどまつておれば、あなたがたも御子と父とのうちに、とどまることになる。

初めから聞いたこと。天地創造の初めの時から、変わらない、揺るぎのない神様のご愛を信じ、この神様を信じてその言葉と行いを信じる。その方の言葉を信じる、行動を信じるということが、その人自身を信じるということです。私たちは私たちの主イエス・キリストによって与えられた救いを信じることによって父なる神様を信じるのです。この救いの方法をとられた神様を、その救いの方法であるイエス様によって信じるのです。ですから、御子を否定する人は父なる神様を否定する者なのです。御子を信じない人は父なる神様を信じることが出来ないのです。

2:25 これが、彼自らわたしたちに約束された約束であって、すなわち、永遠のいのちである。

このイエス様による救いこそが神様の約束であり、それはイエス様によって私たちに与えられた永遠のいのちです。

2:26 わたしは、あなたがたを惑わす者たちについて、これらのこと書きおくった。

2:27 あなたがたのうちには、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない。この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっています。

またイエス様は、私たちに約束の聖霊を与えてくださいました。そしてこの聖霊が私たちに教えてくださるのです。

ヨハネ 14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであろう。

14:27 わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。

2コリント 1:20 なぜなら、神の約束はことごとく、彼において「しかり」となったからである。だから、わたしたちは、彼によって「アアメン」と唱えて、神に栄光を帰するのである。

1:21 あなたがたと共にわたしたちを、キリストのうちに堅くささえ、油をそいで下さったのは、神である。

1:22 神はまた、わたしたちに証印をおし、その保証として、わたしたちの心に御霊を賜わったのである。

エペソ 1:13 あなたがたもまた、キリストにあって、真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである。

1:14 この聖霊は、わたしたちが神の国をつぐことの保証であって、やがて神につける者が全くあがなわれ、神の栄光をほめたたえるに至るためである。

エペソ 4:30 神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがない日のために、聖霊の証印を受けたのである。

4:31 すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。

4:32 互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。

ローマ 8:9 しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におけるのではなく、靈におけるのである。もし、キリストの靈を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。

8:10 もし、キリストがあなたがたの内におられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、靈は義のゆえに生きているのである。

8:11 もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿って

いるなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御靈によって、あなたがたの死ぬべきからだをも、生かしてくださるであろう。

ローマ 8:14 すべて神の御靈に導かれている者は、すなわち、神の子である。

8:15 あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隸の靈を受けたのではなく、子たる身分を授ける靈を受けたのである。その靈によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである。

8:16 御靈みずから、わたしたちの靈と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。

ローマ 8:24 わたしたちは、この望みによって救われているのである。しかし、目に見える望みは望みではない。なぜなら、現に見ている事を、どうして、なお望む人があろうか。

8:25 もし、わたしたちが見ないことを望むなら、わたしたちは忍耐して、それを待ち望むのである。

8:26 御靈もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈つたらよいかわからないが、御靈みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなしして下さるからである。

8:27 そして、人の心を探り知るかたは、御靈の思うところがなんであるかを知っておられる。なぜなら、御靈は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さるからである。

8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

「惑わすもの」や「偽り」がはびこる中、私たちはこの油(聖靈)により、まことと真実を得ることが出来ます。

2:21 わたしが書きおくったのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。

2:22 偽り者とは、だれであるか。イエスのキリストであることを否定する者ではないか。父と御子とを否定する者は、反キリストである。

私たちはイエス様を救い主と告白し、キリストが歩まれたように歩むことによって光の中を進み、真理の中を行き、決して迷うこともなく、惑わされることもないのです。聖靈は私たちのうちに働いて、とりなし、教え、導いてくださいます。

2:28 そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、彼が現れる時に、

確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じいることがないためである。

2:29 彼の義なるかたであることがわかれれば、義を行う者はみな彼から生れたものであることを、知るであろう。

キリストのうちにとどまつていなさい。神様の救いのご計画であるイエス様。私たちのための真実であるイエス様。私たちを愛しぬいてくださったイエス様。私たちの模範でいらっしゃるイエス様。このお方のうちにあってとどまるとき、イエス様の現れの時、すなわち裁きの時にも私たちは確信をもって強く立つことが出来、恥じ入ることもありません。

イエス様は義なるお方です。義という言葉の意味はこうです。「神様の基準、尺度、水準、ご意志、願い、神様のご性質に従い、順応し、合致適合し、同一化し、一致する」もう一度申し上げます。義という言葉の意味はこうです。「神様の基準、尺度、水準、ご意志、願い、神様のご性質に従い、順応し、合致適合し、同一化し、一致する」こと。これが神様の義ということの意味です。神様の前に正しいということは、間違つていないという風に、非が認められない、悪いことをしていないから正しいという現在の法基準のような考え方ではなくて、より積極的に、神様にどれほど肉薄して、神様の歩まれるよう、神様のお考えにならるるよう、そこに自分を同一化していくのかということにかかっています。イエス様は常にそれを祈り求めておられました。

義ということは、何を神様が求め、要求しておられるのかということの飽くなき探求であり、それが神様の前に義、正しいということなのです。そのように行きをもつて神様との正しい関係の中にいつも自分を動かしていく者は、イエス様がいかに神様の前に自らを律して父なる神様の御旨を求めたかということが分かるのです。

イエス様が行かれるところに私たちも行かせてください。イエス様が求められることを私たちも求めさせてください。イエス様が低き者となられたように、私たちも低き者であらせてください。イエス様がおられるところに私もおらせてください。あなたを離れず、あなたの思いからも離れずにおらせてください。

ルツ 1:16 しかしルツは言った、「あなたを捨て、あなたを離れて帰ることをわたしに勧めないでください。わたしはあなたの行かれる所へ行き、またあなたの宿られる所に宿ります。あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です。

1:17 あなたの死なれる所でわたしも死んで、そのかたわらに葬られます。もし死に別れでなく、わたしがあなたと別れるならば、主よ、どうぞわたしをいくえにも罰してください」。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。御子と父との元から私たちを引き離そうとする力の強い働きがあります。惑わしが、偽りがあります。人生の焦点をぼやけさせ、生命線から、命から私たちを引き離そうとする力があります。とどまつていなさいとの神様の語り掛けがあります。「義を行ひなさい」と呼びかけ給う主よ、どうか御旨にかなつた歩みを実行できますように。確信を持ち、恥じ入ることのない真実の歩みの中に私たちをお守りください。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン